

2024年度公益財団法人JKA補助事業

教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書

令和7年3月

一般社団法人日本教育情報化振興会



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

目次

第1章	1
情報モラル指導充実のための事業	1
1. 事業の目的	2
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	3
3. セミナー開催	7
4. 教育 DX 推進フォーラム	25
5. 今年度作成したコンテンツの概要	28
6. まとめ	33
第2章	34
コミュニケーション力育成のための事業	34
1. 事業の目的	35
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	36
3. 「情報活用能力ベーシックを活用した校内研修パッケージ開発」	39
4. 「情報活用能力ベーシックを活用！情報活用能力を育む授業づくりを実現する校内研修パッケージ」パンフレット	43
5. セミナー開催	48
6. まとめ	65

第1章

情報モラル指導充実のための事業

1. 事業の目的

インターネットは、社会生活の一部となり、買い物や予約申込み等は電話よりもむしろインターネットを利用して行い、インターネット無しでは考えられないというほど、社会生活に浸透している。また、スマートフォンの爆発的な普及によりインターネットへの入り口となる端末は、パソコン、携帯電話からスマートフォン、タブレット端末、ゲーム機、音楽プレーヤーのように多様化すると同時に、いつでも、どこでも、誰でもインターネットに接続して、利用できるものとなっており、児童・生徒は保護者の目の届かないところで利用できるようになった。また、2022年度には、文部科学省の政策「GIGAスクール構想」により、児童・生徒1人に1台のPCが整備され、その活用と児童・生徒の安心安全のための配慮が非常に重要なテーマとなっている。

このように身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安全安心にできるようになると同時に、もう一方では児童・生徒がSNS・Twitterや無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT安全安心対策事業」を展開しており、この中の一つの事業として「情報モラル指導充実のための事業」を実施している。

これまで、インターネットには危険な面があるということで児童・生徒をそれらから遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけるようにすることが大切であるという考え方に基づいて「ネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導、啓発するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたことを契機に、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導ができるように、その指導法、教材や現在児童・生徒の抱えている問題点など最新の情報を提供することを目的として、平成23年度から公益財団法人JK Aの補助をいただき、情報モラル指導の講師を育成すべく「情報モラル指導充実のための事業」を行い、教職員や教育委員会の指導主事などを対象としたセミナーを開催して、今年度はその14年目にあたる。正しい指導方法を広く展開することを重要な観点として、セミナー参加者がその地域の教育委員会や学校に戻り、そこで講師として指導ができるための教材と指導方法を伝える資料を用意し、裾野を広げるための活動としている。

なお、これらは公益財団法人JK Aの競輪の補助金を受け実施した。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである

図表1 作業項目とスケジュール

作業項目	2024年												2025年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
委員会開催	▼① 26	▼② 27		▼③ 19		▼④ 4	▼⑤ 21			▼⑥ 7		▼⑦ 7			
開催地公募	—▼														
テキスト改訂	▲—	—	—▼												
セミナー開催				▲—	—	—	—	—▼				▼			
学習教材開発		▲—	—	—	—	—	—	—	—	—	—▼				
教育DX推進フォーラム											▼ 27				

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「ネット社会の歩き方情報モラルセミナー検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全7回の検討委員会を開催し、作業スケジュールの策定、セミナー開催地の公募と採択、セミナー用テキストの改訂、セミナー開催時の講師、学習教材の企画と開発、成果発表会での報告等、本事業の全体を管理した。

また、セミナー用テキストの改訂の実作業、セミナー開催地の教育委員会との連絡、セミナー開催準備、学習教材開発の実作業等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
鳴門教育大学大学院	教員養成 DX 推進機構長・特命教授 藤村 裕一
元 東京女子体育大学	准教授 榎本 竜二
新見公立大学	特任教授 梶本 佳照
エンゼル幼稚園	子育て支援センター長 勝見 慶子
千葉学芸高等学校	総務部長 高橋 時生
柏市教育委員会	教育研究専門アドバイザー 西田 光昭

京都市立向島秀蓮小中学校	教諭	堀川 絃子
敬愛大学教育学部	准教授	三宅 健次
川崎市教育委員会	指導主事	和田 俊雄

図表3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人 日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	調査研究開発部プロジェクト担当部長 乃一 志保	総括・研修対応・窓口
同上	調査研究開発部長 岩瀬 幹彦	総括・研修対応

(3) 委員会の開催

委員会は、適宜日程を調整し開催した。今年度は、多くの教材開発を行ったことで確認・調整事項が多く発生したことで、年間7回の委員会の開催となった。

それぞれの開催日、議題は下記の通りである。

図表4 委員会開催実績

開催回数	開催日	議題
第1回	R6. 4.26	<ul style="list-style-type: none"> ・年度スケジュールの確認 ・セミナー開催地採択と担当委員の選定について ・情報モラルセミナーテキスト改訂について ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ10本、改変3本） - 指導者用情報モラル教育研修用動画教材 （小学校用・中学校用×2本：4本 10分程度） - 教材カタログ（A4折込・裏表・カラー）
第2回	R6. 5.27	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルセミナーについて 関西教育ICT展、JAET東京港区大会、他セミナーについて ・情報モラルセミナーテキストの改訂について ・2023年度の動画の不具合について ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ10本、改変3本） - 指導者用情報モラル教育研修用動画教材 （小学校用・中学校用×2本：4本 10分程度） - 教材カタログ（A4折込・裏表・カラー）

第3回	R6. 7. 19	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルセミナーについて 関西教育 ICT 展での役割シナリオの検討、他セミナーについて 地域セミナー企画の検討 ・2025 年度開発教材の検討 ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本、改変 3 本） - 指導者用情報モラル教育研修用動画教材 (小学校用・中学高校用×2本：4本 10分程度) - 教材カタログ（A4 折込・裏表・カラー）
第4回	R6. 9. 4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルセミナーについて JAET 東京港区大での役割シナリオの検討、他セミナーについて 地域セミナー企画の検討 ・2025 年度開発教材の検討 ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本、改変 3 本） - 指導者用情報モラル教育研修用動画教材 (小学校用・中学高校用×2本：4本 10分程度) - 教材カタログ（A4 折込・裏表・カラー）
第5回	R6. 10. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルセミナーについて 各開催セミナーについて、地域セミナー企画の検討 ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本、改変 3 本） - 指導者用情報モラル教育研修用動画教材 (小学校用・中学高校用×2本：4本 10分程度) - 教材カタログ（A4 折込・裏表・カラー）
第6回	R7. 1. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルセミナー実施後の活用状況について ・ネット社会の歩き方サイト Https 化について ・情報モラルセミナーについて 地域セミナー 滋賀県の開催について 教育 DX 推進フォーラム（2/27）での役割とシナリオについて ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本、改変 3 本） - 指導者用情報モラル教育研修用動画教材 (小学校用・中学高校用×2本：4本 10分程度) - 教材カタログ（A4 折込・裏表・カラー）
第7回	R7. 3. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・教育 DX フォーラム振り返り ・滋賀県 3 市合同セミナーの内容・役割分担・ワークショップ検討 ・新規教材の最終進捗確認 <ul style="list-style-type: none"> -教材カタログ（完） -授業実践動画（完）※視聴 -各ユニット教材の進捗確認

(4) 開催地の公募

開催地の公募は、教育委員会の意向もあり¹前年度の1月より行った。日本教育情報化振興会のWeb ページで公開すると共に、全国の都道府県と中核市以上の教育委員会約120カ所へ下記内容の案内状を送付した。また、当会の会報を全国自治体（1、724カ所）の教育委員会に送付しているが、そこに下記内容の案内状を同封した。

1) テーマ

「情報モラル教育指導のポイント」

2) 開催時期と時間

令和6年6月から令和7年2月の間の午後、最低2時間30分

3) 対象受講者と会場あたりの定員

指導主事、教職員 約50名程度（目安）

4) 開催会場

地方自治体等の無償で利用できる会場 かつ 受講者がパソコンを使用可能な会場

5) セミナーの具体的な内容

講師育成セミナー検討委員会と貴教育委員会の協議で決定する

6) セミナーのプログラム（例）

- ・ データから見るネット社会の現状
- ・ 情報モラルの指導（理論編および実践編）
- ・ 「ネット社会の歩き方」の活用
- ・ その他の教材の紹介
- ・ 保護者との関わり
- ・ 問題発生時の対応
- ・ ワークショップ

(5) セミナー用テキストの改訂

セミナー用テキストの中には、携帯電話・スマートフォンの保有率やネット上のトラブル発生状況等、年々変化する数値データがあるため、中央省庁が発表している最新データに更新した。

さらに、GIGAスクール構想により、1人1台のPC環境整備による情報モラルの重要性についても、解説を更新した。

また、スマートフォンを保有する比率が増え、アプリの進展による新しいSNSのサービスや問題にも対応する必要があった。このように世の中の動きを反映したセミナーとするために、委員の意見に基づ

¹通常、地方自治体の教育委員会は教員研修計画を前年度の2月頃に策定している。この計画に組み込むために、本事業で実施するセミナーの採択に関しても早期の決定を求められている。

き（過去一年間程度のネット上のトラブルやリスクの中から喫緊の課題と考えられる事案を取り込む）資料の差し替えを行った。

3. セミナー開催

(1) セミナー開催

本事業で提供するセミナーは、全国の教育委員会が主催している教員向け研修会の一プログラムとして実施される場合が多い。この関係で、教員が比較的時間を確保し易い、夏休み期間に開催が集中している。教育委員会の指定が無い場合は以下のプログラムでセミナーを実施することとした。

2024年度は、多くの自治体で集合研修のセミナー開催であったが、一部の自治体ではオンライン形式で開催した。

図表5 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	R6. 7. 9	大阪府堺市教育委員会	西田委員	10名
第2回	R6. 7. 23	大阪府富田林市教育委員会	榎本委員	34名
第3回	R6. 7. 24	大阪府守口市教育委員会	榎本委員	41名
第4回	R6. 7. 25	関西教育 ICT 展	藤村委員長 榎本委員 三宅委員 梶本委員	90名
第5回	R6. 7. 30	千葉県成田市教育委員会（オンライン形式）	榎本委員	31名
第6回	R6. 8. 1	広島県呉市教育委員会（オンライン形式）	榎本委員	120名
第7回	R6. 8. 5	東京都消費者センター 飯田橋会場 立川会場（オンライン形式）	榎本委員	103名 6名
第8回	R6. 8. 22	鹿児島県鹿児島市教育委員会	三宅委員	21名
第9回	R6. 8. 23	佐賀県教育委員会（午前開催）	西田委員	36名
第10回	R6. 8. 23	佐賀県教育委員会（午後開催 オンライン形式）	西田委員	43名
第11回	R6. 9. 27	鹿児島県総合教育センター	藤村委員長	14名
第12回	R6. 10. 26	JAET 東京都港区全国大会	藤村委員長 榎本委員 和田委員	19名
第13回	R6. 10. 30	愛媛県西条市教育委員会	榎本委員	47名

第14回	R6.11.6	山形県山形市教育委員会	三宅委員	6名
第15回	R6.11.15	北海道岩見沢市教育委員会	藤村委員長	47名
第16回	R7.2.27	教育DXフォーラム	藤村委員長 西田委員 梶本委員 榎本委員	126名
第17回	R7.3.25	滋賀県長浜市・彦根市・米原市共同開催	藤村委員長 委員 委員	会場： 310名 オンラ イン： 330名
合計				1,434名

図表6 大阪府堺市教育委員会のセミナー風景（令和6年7月9日）



図表7 富田林市教育委員会でのセミナー風景（令和6年7月23日）



図表8 守口市教育委員会でのセミナー風景（令和6年7月24日）



図表9 鹿児島市教育委員会でのセミナー風景（令和6年8月22日）



図表10 佐賀県教育委員会（午前の部）でのセミナー風景（令和6年8月23日）



(2) セミナー開催団体の所感

セミナー開催団体の所感を以下に抜粋する。

1) 参加した教員のほとんどが各校において情報教育を担当する者、または生活指導の担当者であり、どの学校も情報モラル教育の必要性を感じていることがわかる。参加者はグループワークを通して、他校の現状を知ることや、自校の情報モラルに関する課題の整理ができ、有意義な時間となっていた。グループの中には、生成 AI の活用について議題が挙がるなど、これから先の社会を見据えた視点で議論をしていた。本研修において、教職員における情報モラル教育の授業イメージを養うことができたと考えられる。この研修内容を自校に持ち帰り、市内での情報モラル教育が充実することを期待している。

今後、本市としては大阪府より示された「大阪府情報活用能力ステップシート」を市域に普及させ、児童生徒への情報活用能力の向上にむけた取組みを進めていきたい。

2) 榎本先生による講演は、AI 技術の現状と教育現場での利用の重要性をわかりやすく伝えてくださいました。「AIこそすべてではないが、自分から AI (愛) さないと、ICT (愛して) もらえない」というキャッチフレーズは参加者に深く共感を呼び、生成 AI 技術に対する積極的な活用を促しました。また、情報モラルが単なる禁止教育に終わらず、公共ネットワーク社会の構築を目指すためには、「心」と「知恵」を磨き続ける重要性が強調され、具体的な指導法や教材を提示していただきました。多くの参加者がセミナーの内容と形式に満足し、有益な情報を得られたという声が多く聞かれました。特に、榎本先生のお力添えをいただき、Zoom にてグループ協議を行うことができた点については、具体的な事例の共有や、小中の指導の連携の大切さを改めて知ることにつながり、大変好評でした。

成果：ネット社会の最新事情について具体的に紹介していただくことで、情報モラル教育が子どもたちの未来にどう影響するかについて、多くの参加者が考えるきっかけとなりました。

課題：学校での教育だけに頼るのではなく、家庭との連携が非常に重要であることを改めて確認できました。「押し付け合い」ではなく「引き受け合い」の精神で、学校と家庭が連携を強化し、必要に応じて教材や動画の紹介を進めていきたいと思えます。

3) 講演では現在、子供たちを取り巻く「ネット社会の現状」について、具体的な事例をもとに分かりやすく丁寧な講義をいただいた。各校種での課題や実践例を共有する場面が見られた。また、配布資料については、2 学期からの校内研修や授業等で活用できるものばかりで、受講された先生方の情報モラル教育への意欲向上にもつながったと考えている。端末を活用した演習では、ペーパー教材の制作をとおして 2 学期以降の授業の見通しを具体的にイメージできたことから、大変有意義な研修となった。

今回のセミナーでは、より現場の指導者に役立つ研修内容がたくさん含まれており、具体的かつ実践的な講義が多く、各学校における情報モラル教育の質の向上につながるものと考えている。次年度も本セミナーを多くの先生方に受講していただき、教職員の資質向上に努めたい。

4) これからの時代、学校教育の現場に何が求められているのか、どのような指導観をもって教育活動を展開していくことが必要なのかを考えることができた。また、生成 AI を校務や学習で活用する具体的な事例の紹介から、どのような場面で生成 AI を活用することが効果的であるか理解を深めることができた。

講演の中でお話しいただいた「自分達で決めるタブレットの使い方」や「生成 AI をどのように校務や学習に役立てていくか」などについて、岩見沢市教育研究所の情報教育部会の中で共有し、市内全小・中学校への普及・啓発を図る。

図表 1 1 セミナー開催団体の所感

開催場所	講師	所感
大阪府堺市教育委員会	西田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー前半の情報モラルの全体説明では、情報モラルについての指導事例を用いて現状を分かりやすく説明いただいた。また、その中で多くの教材を紹介してもらい授業で即実践できる内容であった。後半のワークショップでは、参加者自身に各学校、生徒の課題を考えさせて、前半で紹介した教材を使って実際に授業デザインを作成して、共有やアドバイスをいただいた。 ・参加者された方からは、多くの教材を紹介いただいて、情報モラル教育について詳しく学ぶことができた、学校に持ち帰って教員同士で共有したいなどの意見があった。また一人の教員はすぐに授業で実践されたそうで、研修時の Teams に授業の様子をアップしてくれた。 ・本市では外部業者と連携して小学校4年生と中学校2年生向きに情報モラルセミナー教室を実施しており、ネットいじめ等の事案も増えていることもあり、研修の必要性を感じている。今後も教員向け研修を計画して情報モラルに対する資質、知識の向上に努めていきたい。
大阪府富田林市教育委員会	榎本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した教員のほとんどが各校において情報教育を担当する者、または生活指導の担当者であり、どの学校も情報モラル教育の必要性を感じていることがわかる。参加者はグループワークを通して、他校の現状を知ることや、自校の情報モラルに関する課題の整理ができ、有意義な時間となっていた。グループの中には、生成 AI の活用について議題が挙がるなど、これから先の社会を見据えた視点で議論をしていた。 ・本研修において、教職員における情報モラル教育の授業イメージを養うことができたと考えられる。この研修内容を自校に持ち帰り、市内での情報モラル教育が充実することを期待している。今後、本市としては大阪府より示された「大阪府情報活用能力ステップシート」を市域に普及させ、児童生徒への情報活用能力の向上にむけた取組みを進めていきたい。

大阪府守口市教育委員会	榎本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに禁止ルールを伝えるだけでは効果がないことに共感し、具体的な指導方法の必要性を感じた。 ・シミュレーション教材や動画など、授業で活用できる具体的なツールが紹介され、二学期からの活用意欲が高まりました。 ・スライドを編集しながらのワークショップ形式でスムーズに進行でき理解が深まった。他の先生方との共同編集により、学びの進み方を共有できたことが良かった。 ・情報モラル教育は継続的に伝えていくことが大切であり、粘り強く取り組むことが大切。 ・「ネット社会の歩き方」などの教材を参考にし、具体的なイメージを持って指導することの重要性が認識できた。 ・教職員自身が情報リテラシーを持つことの重要性が再認識できた。 ・研修で学んだ内容を校内で共有し、情報モラル教育の質の向上につなげたい。 ・今後についても、教職員研修の実施や情報教育担当者への情報発信を行っていく。
千葉県成田市教育委員会	榎本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・榎本先生による講演は、AI技術の現状と教育現場での利用の重要性をわかりやすく伝えてくださいました。「AIこそすべてではないが、自分からAI（愛）さないと、ICT（愛して）もらえない」というキャッチフレーズは参加者に深く共感と呼び、生成AI技術に対する積極的な活用を促しました。また、情報モラルが単なる禁止教育に終わらず、公共ネットワーク社会の構築を目指すためには、「心」と「知恵」を磨き続ける重要性が強調され、具体的な指導法や教材を提示していただきました。多くの参加者がセミナーの内容と形式に満足し、有益な情報を得られたという声が多く聞かれました。特に、榎本先生のお力添えをいただき、Zoomにてグループ協議を行うことができた点については、具体的な事例の共有や、小中の指導の連携の大切さを改めて知ることにつながり、大変好評でした。 ・成果：ネット社会の最新事情について具体的に紹介していただくことで、情報モラル教育が子どもたちの未来にどう影響するかについて、多くの参加者が考えるきっかけとなりました。

		<ul style="list-style-type: none"> ・課題：学校での教育だけに頼るのではなく、家庭との連携が非常に重要であることを改めて確認できました。「押し付け合い」ではなく「引き受け合い」の精神で、学校と家庭が連携を強化し、必要に応じて教材や動画の紹介を進めていきたいと思ひます。
広島県呉市教育委員会	榎本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もオンライン研修で御講演いただきました。最新の情報やすぐに活用できるコンテンツの紹介だけでなく、「IDやパスワードを他の人に聞いたり、教えたりしないようにしている」「写真や動画を撮る時、人や会社名が写らないように気をつけている」等の児童生徒のアンケート結果からの課題や、「授業中、許可なく先生の写真を撮影し、撮影したものを無断でSNSにあげている」といった、現在の呉市の実態に即した内容で、大変有益な御講演をいただくことができました。グループ協議では、動画コンテンツを活用した授業の「まとめ」を考えるロールプレイングを通して、すぐにでも実践へ活かせる内容となりました。発表の場では、発表者の発言の後に榎本先生が御助言をくださったことで、研修をさらに深めることができました。 ・参加者からは、「ネット社会の歩き方動画教材を児童生徒実態に合わせて視聴させ、ただ単に禁止するのではなく、なぜいけないのかを伝え、自覚させていきたい。」「情報教育は家庭との連携が重要。学校と家庭で引き合う文化を築いていきたい」「講話やグループ協議で学んだことを活かして、保護者と連携を図っていくためにも、紹介していただいた動画を参観日に視聴し児童生徒だけでなく保護者にも考えさせる場を設定していきたい。」等、今後に向けての意見が多数ありました。 ・呉市では、令和2年度から、貴法人の御支援をいただき、情報モラル教育の充実を図っているところです。本年度も、各校1名以上の参加に加え、本県に今年度から採用された初任者に本セミナーを受講させており、今後、各校で研修内容を周知させることで、全教職員に本研修内容を普及したいと考えております。是非、次年度以降も御支援をいただきたいと思いますと考えております。どうぞよろしくお願ひします。

東京都消費者センター	榎本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・受講アンケートによると、8割を超える受講者が、「充実していた」と回答しており、好評だった。 ・ネット社会で生きていく際に必要なことを学ぶことができた。具体的な例を交え、分かりやすかった。コンテンツも使いやすそうでした。 ・学校種ごとに話し合える学習が設定されていたのはとてもよかった。 ・ネット社会を生き抜く子どもたちにとって、その場面に応じて自らの力で考え、判断する力をつけていくことの大切さを痛感した。その一助となれるようもっと学びたいと感じた。 ・教員を対象とした講座の開催において「情報」分野に取り組んで行く。
鹿児島県鹿児島市教育委員会	三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> ・講演では現在、子供たちを取り巻く「ネット社会の現状」について、具体的な事例をもとに分かりやすく丁寧な講義をいただいた。各校種での課題や実践例を共有する場面が見られた。また、配布資料については、2学期からの校内研修や授業等で活用できるものばかりで、受講された先生方の情報モラル教育への意欲向上にもつながったと考えている。端末を活用した演習では、ペーパー教材の制作をとおして2学期以降の授業の見通しを具体的にイメージできたことから、大変有意義な研修となった。 ・今回のセミナーでは、より現場の指導者に役立つ研修内容がたくさん含まれており、具体的かつ実践的な講義が多く、各学校における情報モラル教育の質の向上につながるものと考えている。次年度も本セミナーを多くの先生方に受講していただき、教職員の資質向上に努めたい。
佐賀県教育委員会（午前開催）	西田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前半の講演では、主に以下の内容について教育現場での注意事項などを実際の事例を用いて具体的に説明していただいた。講演の中では参加者同士がディスカッションする場もあり、勤務校の実態を踏まえながら、賛否両論様々な意見を交わしていた。 ・2015年と2050年に求められるスキルの比較 ・学習用端末の機能制限とセルフコントロール

		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻くネット社会の諸問題（学習用端末、スマートフォン） ・同一パスワードの危険性と写真から場所がわかるリスク ・安全なネット利用のためのフィルタリングの必要性 ・コンパス利用動画の是非についてのディスカッション ・判断力の重要性と事前学習の必要性 ・情報リテラシーの役割 ・後半のワークショップでは、情報モラル教材「ネット社会の歩き方」（デジタル媒体）の紹介があった。参加者は無償提供されている教材を各々が自身のペースで視聴し、それぞれの学校や生徒の現状を想像しながら、学校現場でどのように活用するかをグループごとに考察した。グループ内での話し合いの中では、「動画教材が豊富で、生徒の発達段階に応じた指導がしやすい。」、「問題点と解決策が整理されている教材なので、学校でSNSの問題が起こった時も良いタイミングで指導ができる。」などの声が聞かれた。 ・佐賀県では、県立学校において、年間指導計画に沿って各学校で組織的に情報モラル教育を実施している。また、教職員対象の研修として、毎年本セミナーやオンデマンドによる研修を行っている。現在、佐賀県では県立学校は1校1人以上の参加、小中学校は希望参加としているが、今後も多くの教職員へセミナーの参加を促し、児童生徒の情報モラル向上に努めたいと考えている。
鹿児島県総合教育センター	藤村委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・講演では、教育の情報化の最新の情報や他県・他国の状況等について詳しくお話をいただき、情報教育の具体的、実践的な内容まで知ることができました。また、情報モラル教育が必要とされる社会的背景と情報モラルの指導について、本質的な解釈等も踏まえ、幅広く事例を取り上げていただきました。講演の後半では、「ネット社会の歩き方」のWebサイトで提供されている情報モラル教材の活用方法について紹介していただきました。情報モラル教材を活用したグループワークでは、人によって感じ方や価値観等が異なることを、体験を通して学ぶことができ、主体的・対話的な情報モラルに関する指導について考えることができたようでした。

		<ul style="list-style-type: none"> 今回のセミナー参加者は、情報教育のリーダーとなるべき人材育成を目的とした通年による継続研修（年間20回のインターバル研修）の受講者であることから、今後は参加者の所属校における還元研修として、今回の内容を行うようにします。また、当センターの所員も参加していることから、本センターで実施する情報モラル教育等に関する講座などにおいて積極的に活用するとともに、各教科・領域及び生徒指導・教育相談等に関わる研修講座と関連付けながら、講座内容に取り入れていきたいと考えています。
愛媛県西条市教育委員会	榎本委員	<ul style="list-style-type: none"> 榎本先生は、常に先生目線で、児童生徒の前に立つことを前提としてお話をされる方で、教員には響くお話になったと思います。後半のグループワークは、「ネット社会の歩き方」サイトの動画を児童生徒に閲覧させたという前提で、児童生徒に、どうしてこうなったのか、どうするのが良かったのか等を考えさせる疑似体験をグループワークで実施し、各グループで発表するというもので、出席した教員の方々が生き生きとグループワークに取り組まれていたのが印象的でした。発表においても、まるで児童生徒が目の前で聞き入っているかの様な素晴らしい発表が多く、実践的なグループワークとなったのではないかと感じております。 今回、市内から集まっていた先生方は、校内の情報化を引っ張る側の役割をされる方々です。今回の成果を各校に持ち帰り、情報モラルの普及、啓発に励んでいただけるものと確信しております。また、西条市では「ネット社会の歩き方」サイトにある質の高い多くのコンテンツを即、利用可能な様に、GIGA スクールの1人1台端末で最初にブラウザに表示されるポータルサイトからリンクしてあります。
山形県山形市教育委員会	三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の反応として、「情報モラル教育に対する視野が広がった。学校に還元していきたい。」「情報モラルについて、私自身知らないことがたくさんあったため、今回得られたものを授業の中や教員間の情報共有に活かしたい。」「デジタルシチズンシップの考え方を初めて知った。ネガティブな表現で終わら

		<p>ず、どうするべきかを考えさせ導くような授業を行いたい。」というものが見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 成果や今後の普及については、各学校から依頼される情報モラル講演会（指導主事による講義）において、今回の研修で学んだ内容を取り入れる。毎年2月と5月に各学校から情報教育担当者が集まり、研修会を行っているが、今回の研修内容を紹介する。
北海道岩見沢市教育委員会	藤村委員長	<ul style="list-style-type: none"> • これからの時代、学校教育の現場に何が求められているのか、どのような指導観をもって教育活動を展開していくことが必要なのかを考えることができた。また、生成AIを校務や学習で活用する具体的な事例の紹介から、どのような場面で生成AIを活用することが効果的であるか理解を深めることができた。 • 講演の中でお話いただいた「自分達で決めるタブレットの使い方」や「生成AIをどのように校務や学習に役立てていくか」などについて、岩見沢市教育研究所の情報教育部会の中で共有し、市内全小・中学校への普及・啓発を図る。

(3) 受講者へのアンケート

セミナー内容を改善するために受講者へ下記アンケートを実施した。

図表 1 2 受講者向けアンケート (Google フォーム)



「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー アンケート

「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナーを受講いただきありがとうございます。ご意見・ご感想をお聞かせください。

一般社団法人 日本教育情報化振興会では、公益財団法人 JKA の競争の補助を受け、「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナーを開催しています。本セミナーは児童生徒がネット社会を正しく歩んでいくため、指導を行っていただく際のノウハウを提供するものです。

infomoral.japetcec@gmail.com [アカウントを切り替える](#)

共有なし

* 必須の質問です

セミナー受講日 *

日付

年 / 月 / 日

受講方法 *

セミナー会場での受講

オンライン受講

その他: _____

あなたの性別は? *

男

女

回答しない

あなたの年齢は? *

20~29歳

30~39歳

40~49歳

50~59歳

60~69歳

70歳以上

あなたの所属についてお伺いします。 *

小学校

中学校

高等学校

特別支援学校

上記以外の学校

行政

その他: _____

あなたの職名についてお伺いします。 *

校長

副校長

教頭

教諭

指導主事

その他: _____

あなたの分掌分野についてお伺いします。 *

教科指導

生徒指導

教務

情報教育

研修

その他: _____

図表 1 2 受講者向けアンケート (Google フォーム) つづき

<p>これまで受講された研修について伺います。過去に、今回のような情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがありますか。</p> <p><input type="radio"/> ある</p> <p><input type="radio"/> ない</p>	<p>今回のセミナーで得られた情報の展開について伺います。本セミナー以降に、校内などでセミナー、研修会など開催する予定はありますか。あなたの考えに合うものを1つ選んでください。</p> <p><input type="radio"/> セミナー、研修会などの開催する</p> <p><input type="radio"/> 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい</p> <p><input type="radio"/> セミナー、研修会など開催の予定はない</p> <p><input type="radio"/> その他: _____</p>
<p>これまでの情報モラル研修への関わり方について伺います。過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがありますか。</p> <p><input type="radio"/> ある</p> <p><input type="radio"/> ない</p>	<p>開催を計画、予定されるセミナーや研修会はどのようなものでしょうか、ご記入ください。</p> <p>回答を入力</p>
<p>受講動機について伺います。本セミナーへの受講動機として該当する項目を選んで下さい。</p> <p><input type="radio"/> 情報教育の担当をしているため</p> <p><input type="radio"/> 情報モラル指導のレベルアップのため</p> <p><input type="radio"/> 上司から受講の指示、勧めがあったため</p> <p><input type="radio"/> その他: _____</p>	<p>今後増やして欲しい情報モラルの教材がありましたら、内容をご記入ください。</p> <p>回答を入力</p>
<p>セミナーの内容について伺います。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に、今回のセミナーが参考になると思うか、【参考度】をお答えください。</p> <p><input type="radio"/> 大変参考になる</p> <p><input type="radio"/> やや参考になる</p> <p><input type="radio"/> あまり参考にならない</p> <p><input type="radio"/> 参考にならない</p>	<p>最後に、全体を通してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください。</p> <p>回答を入力</p>
<p>今回のセミナー内容に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください。</p> <p>回答を入力</p>	
<p>セミナーの教材について伺います。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に、今回紹介した教材が活用できると思うか、【活用度】をお答えください。</p> <p><input type="radio"/> 大変活用できる</p> <p><input type="radio"/> やや活用できる</p> <p><input type="radio"/> あまり活用できない</p> <p><input type="radio"/> 活用できない</p>	

1) 受講者プロフィール

セミナー受講者のプロフィールを図表 13 から 16 にまとめた。

① 性別年代別受講者数

どの年代においても、男性受講者の方が多い。年代別では、20、30 歳台が多かった。

図表 1 3 性別年代別受講者数（単一選択）

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	合計
男性	74	82	45	43	11	0	255
	29%	32%	18%	17%	4%	0%	
女性	69	27	23	28	7	0	154
	45%	18%	15%	18%	5%	0%	
無回答	1	2	1	1	0	0	5
合計	144	111	69	72	18	0	414
	35%	27%	17%	17%	4%	0%	100%

② 学校種別受講者数

全国の学校種別の教員の人数の比率（小学校：中学校：高等学校＝3：2：1）に応じた受講比率となっている。

図表 1 4 学校種別受講者数（単一選択）

学校					行政	その他	合計
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他の学校			
191	136	53	16	6	5	7	414
46%	33%	13%	4%	1%	1%	2%	100%

③ 役職別受講者数

一部の熱心な校長先生が受講されているが、通年では教諭が圧倒的に多い。その他は、行政職か ICT 支援員である。

図表 1 5 役職別受講者数 (単一選択)

校長	副校長	教頭	教諭	指導主事	その他	合計
10	1	7	364	4	28	414
2%	0%	2%	88%	1%	7%	100%

④ 分掌分野別受講者数

勤務校で情報教育を担当されている先生が多いが、2020 年 4 月から新学習指導要領の全面実施となったことと GIGA スクール構想のため、「生徒指導」担当の先生も多い。また、その他が多いのは学校運営管理業務や行政職と予測される。

図表 1 6 分掌分野別受講者数 (複数選択)

教科指導	生徒指導	教務	情報教育	研修	その他	合計
118	79	82	149	54	73	555
21%	14%	15%	27%	10%	13%	

2) 受講者のこれまでの情報モラル研修との関わり

セミナー受講者のこれまでの情報モラル研修との関わりを図表 17 から 19 にまとめた。

① 過去の受講経験

情報モラル研修に参加したことがある・なしは、ほぼ 1 : 1 である。

図表 1 7 過去に、情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがあるか (単一選択)

ある	ない	合計
202	212	414
49%	51%	100%

② 過去の講師経験

過去に情報モラル研修を企画したことが無い先生の方が多かった。

図表 1 8 過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがあるか (単一選択)

ある	ない	合計
38	376	414
9%	91%	100%

③ 本セミナーの受講動機

「上司からの指示」の割合は少なくなっているが、積極的に受講されている先生は少ないと思われる。その他は悉皆研修となっているセミナーの参加者と考えられる。

図表 1 9 本セミナーの受講動機（単一選択）

1：情報教育の担当をしているため	146	35%
2：情報モラル指導のレベルアップのため	147	36%
3：上司からの指示があったため	87	21%
4：その他	34	8%
回答数	414	100%

3) 本セミナーに対する評価

セミナー受講者のセミナー評価を図表 20 から 21 にまとめた。

① 本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか。

77% の受講者が“大変参考になる”と考えている。“やや参考になる”を含めれば 99% となる。

図表 2 0 本セミナーの有用度（単一選択）

参考にならない <<<<<< 参考になる			
1	2	3	4
0	3	93	318
0%	1%	22%	77%
		3or4 の回答比率	
		99%	

② 本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会に活用できるか。

75% の受講者が“大変活用できる”と考えている。“やや活用できる”を含めれば99%となる。

図表 2 1 本セミナー教材の有用度（単一選択）

活用できない <<<<<< 活用できる			
1	2	3	4
1	3	98	312
0%	1%	24%	75%
		3or4 の回答比率	
		99%	

4) 今後のセミナー開催予定

セミナーの開催を具体的に考えている先生が少ないことは今後の課題と考えている。

図表 2 2 今後のセミナー開催予定（単一選択）

1. セミナー、研修会などの開催する	41	10%
2. 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい	268	52%
3. セミナー、研修会など開催の予定はない	159	166
4. その他	15	4%
27	5%	
回答数	414	100%
	520	

4. 教育 DX 推進フォーラム

当事業の活動内容を広く広報するための、2024年度 教育 DX 推進フォーラムでは、国立オリンピック記念青少年総合センター会場で開催した。また、フォーラム終了後にアーカイブ配信も実施した。今回は「Next GIGA・生成 AI 時代の情報モラル・デジタルシチズンシップ教育」と題して分科会を実施した。

分科会の概要は以下の通りであった。

- ・開催日時 令和 7 年 2 月 27 日（土） 13 時 00 分～14 時 00 分
- ・会場 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 小ホール
- ・役割分担 コーディネーター：藤村委員長
パネリスト : 西田委員、梶本委員、榎本委員
- ・来場者数 126 名
- ・趣旨 「Next GIGA・生成 AI 時代の情報モラル・デジタルシチズンシップ教育」
- ・パネル討論内容

1) コーディネーター：藤村委員長

問題提起（デジタルシチズンシップと情報モラルの正しい理解）

- ・主体的・対話的で深い学びによる情報モラル教育
- ・情報モラルとデジタルシチズンシップ
- ・生成 AI との付き合い方

2) パネリスト

●西田委員：幼児教育への取り組み

- ・低年齢層への情報機器使用の拡がり
- ・幼児～低学年向け動画教材紹介
- ・ペープサート教材の紹介
- ・保護者向けモラルコミックによる保護者・子どもの両軸からの啓蒙

●梶本委員： ネット社会の歩き方動画教材紹介

- ・アニメーション動画の構成と授業実践例
- ・2025 年度版の新作動画教材ご紹介

●榎本委員：ワークショップ

- ・コンセンサスゲーム「悪いことにも順位がある」を実施
会場内で 4～5 人のグループでディスカッション後 発表

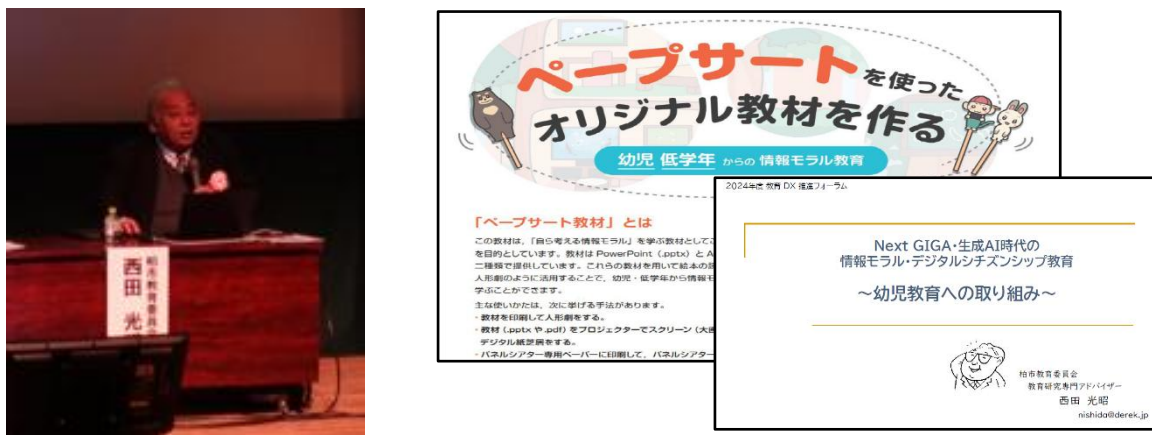
図表 2 3 パネルディスカッションの様子（セミナー開始・登壇者全員・会場風景）



図表 2 4 パネルディスカッションの様子（藤村委員長）



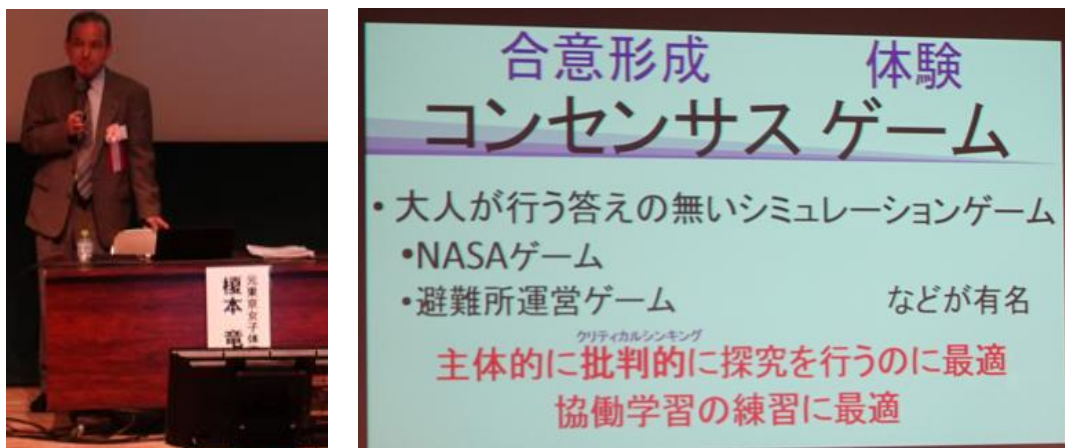
図表 2 5 パネルディスカッションの様子（西田委員）



図表 2 6 パネルディスカッションの様子（梶本委員）



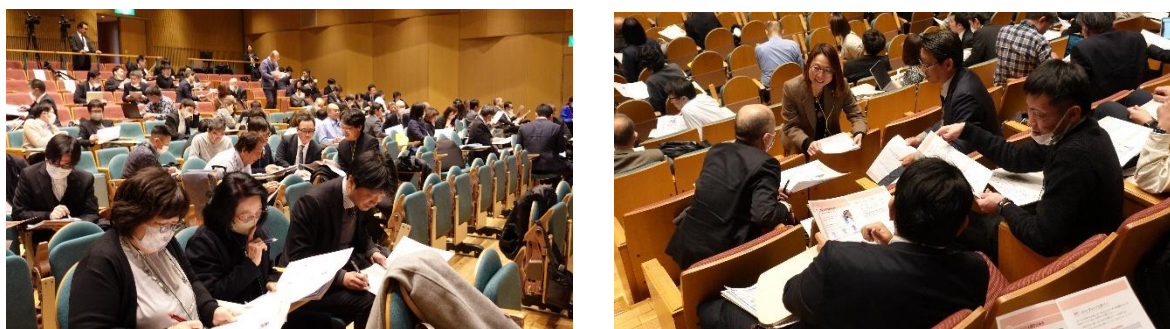
図表 2 7 パネルディスカッションの様子 (榎本委員)



図表 2 8 パネルディスカッションの様子 (ワークショップ・個人ワーク)



図表 2 9 パネルディスカッションの様子 (ワークショップ・ディスカッション)



図表 3 0 パネルディスカッションの様子 (ワークショップ・委員の先生方・発表)



5. 今年度作成したコンテンツの概要

(1) 新規学習ユニット10テーマ+改変3テーマ

アニメーションで様々な事象を確認しながら、情報モラルについて学習できるようになっている。

① 信頼できる人だったのに

<校種> 小中高

<教科>
学級活動

<学習内容>



SNSなどを通じて性的な目的を隠して子どもに近づき、信頼関係を築いた上で性的な行為をしようとすることを、「性的グルーミング」と言う。そのような被害に遭わないようにどうすれば良いのかを考える。

② 電子メールってどう書くの？

<校種> 小中

<教科>
総合的な学習の時間、特別活動

<学習内容>



工場見学の依頼からお礼を例に電子メールを出すときの基本的なルールについて考えていく。

③ クラウドの落とし穴

<校種> 小中高

<教科>
技術・家庭科, 情報科, 学級活動, 道徳,
総合的な学習の時間

<学習内容>



学習でのクラウド利用が日常的になりつつある。クラウドの特性を知り、安心安全な使い方について学ぶ。

④ その情報、本当に大丈夫？

<校種> 小中・保護者

<教科>

社会科、学級活動、技術・家庭科（技術分野）、
総合的な学習の時間、各教科等

<学習内容>



災害発生時に、誤った情報やデマに翻弄されずに情報を正しく判断する方法について考えていく。

⑤ 好奇心を刺激する情報に注意！

<校種> 中高

<教科>

社会、公民、学級活動、総合的な学習の時間

<学習内容>



「好奇心を刺激するような情報」の問題点とその情報との向き合い方について考える。

⑥ 多数決って万能？

<校種> 小中高

<教科>

特別活動・総合

<学習内容>



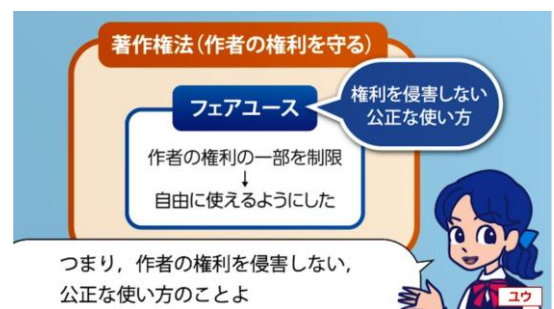
物事を決める時は、少数意見も尊重し、譲り合いながら話し合っていくことの大切さについて考える。

⑦ 著作物のフェアユース（公正な利用）

<校種> 小中高

<教科>

ホームルーム、図工、美術、音楽、国語、道徳、
総合的な学習（探究）の時間、情報



<学習内容>

著作権法は作者の権利を守るものですが、作者の権利を侵害しない公正な使い方を決めたフェアユースというルールについて考えていく。

⑧ 「使い捨て」にされる闇バイトの罠

<校種> 中高

<教科>

学級活動，総合的な学習の時間

<学習内容>



若年層の闇バイトへの関連のニュースが後を絶たない。闇バイトや犯罪募集から抜け出せなくなってしまうように、どのように見分けるポイントがあるのかを考える。

⑨ ポイ活って稼げるの？

<校種> 中高

<教科>

学級活動

<学習内容>



ポイ活には、気軽にポイントが稼げるというメリットがある反面、さまざまな問題点もあります。ポイ活を始める場合に注意することについて考えていきます。

⑩ 隠れた広告に気を付けて

<校種> 小中高

<教科>

ホームルーム，道徳，総合的な（探究的な）学習の時間，家庭科，社会科，情報科

<学習内容>



偽公式サイトに騙されて、商品を購入してしまわないようにする方法を一緒に調べ、考えていく。

<改変3テーマ>

⑪ マナーモード?それとも電源オフ?

<校種> 中高

<教科>

技術家庭・家庭

<学習内容>

携帯電話の基本的なマナーを知る。



⑫ ケータイのコミュニティは慎重に

<校種> 中

<教科>

技術家庭

<学習内容>

携帯電話では、URLが表示されない、リンクをたどるうちに、別のサイトに移動したことに築かない、サイトを確認することが大事なことを知る。



⑬ 書き込みはリアル?

<校種> 中高

<教科>

技術家庭・情報

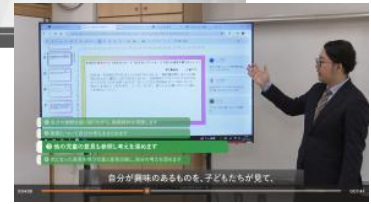
<学習内容>

毎日のリアルへの書き込みから、個人情報特定されることがあることを知る。



●授業実践動画

アニメーション動画を使った授業実践例について
動画を2本作成。※実際の授業風景動画



① 小学校高学年編

<使用教材>

「生成AIって万能?」「AIが生み出すニセ情報」を使用した
授業展開事例

② 小学校高学年編

<使用教材>

「うまい話は危険!闇バイトの罠」を使用した
授業展開事例



●教材カタログ

「ネット社会の歩き方」の各教材を紹介するために総合カタログを作成。

本カタログにより、広く教材の認知度を上げ、学校での活用につなげる。



6. まとめ

生成AIに代表されるように近年のICTの進展は目覚ましく、個々のハードウェアやソフトウェアに対応した情報モラル教育は事実上不可能になっている。学校教育でよく言われる「流行と不易」を、教える側が良く考え取り組む必要がある。

スマートフォン、携帯ゲーム機の普及により、平易にいつでもどこでもインターネットを利用できる環境が子どもたちに急速に拡大した。それらの変化により誹謗中傷や言葉不足からのいじめ、ネット犯罪の被害や更に加害者となる事例、生活に支障をきたすまでのネット利用などの事例が更に深刻化した。今回の事業は、子どもたちに有効な情報モラル指導を実施させ、充実したコミュニケーションを取れるための指導を行い、更にネット依存の手前で立ち止まるための指導を行えるための対策とした事業を実施した。

ここにおいて、公益財団法人JK Aの補助金を原資として、日本教育情報化振興会が情報モラル指導の教材開発と教員向けセミナーを開催することは非常に社会的に価値があると考えている。文部科学省の学習指導要領に基づいた「不易」の部分に関する指導方法の研修と、マスコミへの掲載記事に基づいた「流行」の部分に関する最新の事故、事件、リスク回避方策の伝達は、日々児童・生徒と接している教員にとって指導時の参考になっている。

日本教育情報化振興会では、「不易」な面での道徳を中心とする「心を磨く」領域の教材提供に特に力を入れていきたい。一方で、「流行」の面では情報を中心とする「情報の知識」「情報の理解」領域の教材提供に力を入れていきたい。来年度は、教員向けセミナーの開催（28ヶ所）と新しい問題や事件に対応した学習教材の開発を予定している。教育委員会よりセミナーの開催数の増加の要望もきているため、できる範囲で対応していきたいと考えている。

また、開発予定の教材の特徴については、以下の通りである。

- ① 動画ユニット教材新規開発（7本）
- ② 「ネット社会の歩き方」ナビカード補完テーマ（4タイトル）
- ③ 小学校高学年・中学校向け図鑑 改訂
- ④ 幼児～小学校低学年向け絵本教材（新教材）

最後に、少しでも多くの教員が情報モラル指導を実践できるよう、日本教育情報化振興会および委員全員が啓蒙活動に邁進する所存である。

以 上

第2章

コミュニケーション力育成のための事業

1. 事業の目的

2020年度から全面実施された小学校学習指導要領では、情報活用能力が言語能力に並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。また、中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）において、「情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のこと」としている。

本委員会では、現場の先生方が子どもたちの情報活用能力を育成する学習を行うために、2020年度に、授業の構想及び実践に資する学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標を開発し、それを「情報活用能力ベーシック」と名づけた。「情報活用能力ベーシック」は、学習指導要領をはじめ、文部科学省が公開している関連文書を対象に、「情報活用能力ベーシック」に適合するキーワードを抜き出し、整理したものである。

この指導指標である「情報活用能力ベーシック」を学校現場で活用してもらい、普及することを本事業の目的とした。

2020年度に、授業の構想及び実践に資する学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標

「情報活用能力ベーシック」を開発。「授業づくりに小学校版「情報活用能力ベーシック」を活用してみよう」というパンフレットでまとめた。

2021年度は、「情報活用能力ベーシック」を、小学校の教科における低中高別に整理したものも含め、学校現場の先生方がより活用しやすいかたちにまとめた「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」を製作。

また、模擬授業については、この情報活用能力ベーシックに基づき、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできる模擬授業として開発した。

2022年度は、「情報活用能力ベーシック」を、中学校の教科において整理したものも含め、学校現場の先生方がより活用しやすいかたちにまとめた「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック中学校版」を製作。

また、模擬授業については、この情報活用能力ベーシックに基づき、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできる模擬授業として開発した。

2023年度は、情報活用能力ベーシックを活用した実践事例を、単元という形でまとめ、学校現場の先生方に、より授業の実践内容が伝わるように製作したものが、「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」である。

2024年度は、2023年度までに製作した以下の4種類の制作物を活用し、様々な地域やイベントで広く模擬授業を実施した。また、学校現場の先生方に「情報活用能力ベーシック」を活用してもらうために、校内研修における「情報活用能力ベーシック」を活用した内容を開発し、その紹介パンフレットを制作した。授業において活用されることを期待する。

1. 「授業づくりに小学校版「情報活用能力ベーシック」を活用してみよう」
2. 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」

- 3. 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック中学校版」
- 4. 「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」

本委員会は、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の教育情報化振興会が一丸となって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願う。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである。

図表1 作業スケジュール

校内研修パッケージ開発						▲-----▼						
セミナー開催				▼①	▼②		▼③		▼⑤	▼⑦	▼⑧	
				25, 26	8		19		21	25	27, 28	
				大阪	北海道		岡山		宮城	沖縄	東京	
							▼④		▼⑥			
							26		26			
							東京		富山			
実践授業動画コンテンツ開発						▲-----▼						
冊子教材制作										▲-----▼		
	2024年									2025年		

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「情報活用能力育成検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全1回の委員会と5回のWG会議を計画し、作業スケジュールの策定、情報活用能力に関する各施策の検討及び作成等、本事業の全体を管理した。また、情報活用能力育成に関する動画コンテンツやおパンフレットの制作実作業、セミナー開催準備等は事務局が担当した。

図表 2 委員一覧

所属	役職及び氏名
放送大学※	准教授 小林 祐紀（委員長）*
茨城大学※	教授 佐藤 幸江（副委員長）*
放送大学※	教授 中川 一史*
東北学院大学文学部	教授 稲垣 忠*
熊本大学大学院教育学研究科	特任教授 前田 康裕*
船橋市立宮本小学校	校長 秋元 大輔
札幌国際大学	教授 岩崎 有朋*
柏市立大津ヶ丘第一小学校	校長 佐和 伸明
浜松市教育委員会	指導主事 菊地 寛
桐蔭学園高等学校・中等教育学校	教諭 郡司 直孝
北海道教育大学附属函館中学校	教諭 有金 大輔
船橋市立若松小学校	教諭 渡辺 拓也
宮代町立須賀小学校	教諭 小内 慶太
加賀市立片山津中学校	教諭 北濱 康裕
東京都新宿区立市谷小学校	教諭 田中 愛

（注）※：WG メンバー

図表 3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	調査研究開発部 部長 岩瀬 幹彦	総括
同上	普及促進部 担当部長 渡邊 浩美	連絡窓口・全体企画・運営・セミナー対応

(3) 委員会開催

委員会開催の他、メールによる検討・決議を行った。委員会の開催日、議題は下記の通りである。

図表 4 委員会開催実績(全日程オンライン開催)

開催回数	開催日	議題
第 1 回	2024. 5. 12	(1) 今年度の活動方針（小林委員長）

		<p>(2) 各活動について検討</p> <p>① 授業動画コンテンツの開発</p> <p>② 「情報活用能力ベーシックを活用した校内研修パッケージ」開発</p> <p>③ 「情報活用能力ベーシック」の活用の評価</p> <p>④ 「情報活用能力ベーシックを活用した校内研修パッケージ」紹介パンフレット制作</p> <p>⑤ 「模擬授業」を含んだワークショップ研修の企画内容検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナーの実施について ・全体スケジュールについて <p>(3) 旅費精算等についての事務手続き等について</p>
第1回 WG	2024. 5. 3	<p>(1) 第一回委員会に向けての今年度の活動方針、活動内容等の検討</p> <p>(2) その他</p>
第2回 WG	2024. 6. 27	<p>(1) 「情報活用能力ベーシック」の評価についての具体的な活動内容、スケジュールの検討</p>
第3回 WG	2024. 7. 19	<p>(1) 2025年度JKA事業予算申請に伴う事業計画の検討</p>
第4回 WG	2024. 11. 25	<p>(1) 「情報活用能力ベーシックを活用した校内研修パッケージの開発・評価」の今後の具体的な活動・スケジュールの検討</p>
第5回 WG	2025. 3. 12	<p>(1) 2024年度活動について</p> <p>(2) 2025年度「情報活用能力育成調査研究事業」委員体制</p> <p>(3) 2025年度第一回委員会開催日程の調整</p> <p>(4) 2025年度「情報活用能力育成調査研究事業」活動方針</p> <p>(5) 各施策案について</p>

3. 「情報活用能力ベーシックを活用した校内研修パッケージ開発」

「情報活用能力ベーシック」を普及するために、各地域の教育委員会とのタイアップセミナーや各ビッグイベント内でのワークショップを行ってきた。さらに、学校現場の先生方により「情報活用能力ベーシック」を活用してもらうために、学校内で行われている校内研修のパッケージとして「情報活用能力育成研修の手引き」を開発した。

「情報活用能力育成研修の手引き」について

(1) 目的

この研修では、情報活用能力を育成するための学習過程を理解するとともに、自分自身の授業改善に生かすことを目的とします。つまり、「情報活用能力を育成するために自分自身の授業をどのように改善するか」ということが課題ということになります。また、本研修の流れそのものが、情報活用能力を育成する学習過程になっていますので、その学習を体験的に理解することができるようになっています。

(2) 研修の流れ

研修は 60 分を想定して 6 つの活動で構成されています。(5 分の余裕を持たせています。)

順番	活動内容	学習過程	時間
1	本研修の目的を確認する（研修担当者からの説明）	課題の設定	5 分
2	情報活用能力ベーシックを知る（研修用ビデオ 1 の視聴）	情報の収集	15 分
3	授業の動画を視聴する（研修用ビデオ 2 の視聴）	情報の収集	5 分
4	授業からの学びを明らかにする（対話）	整理・分析	10 分
5	自分の授業への活用を考える（対話）	まとめ・表現	10 分
6	研修全体を振り返る（対話）	振り返り・改善	10 分

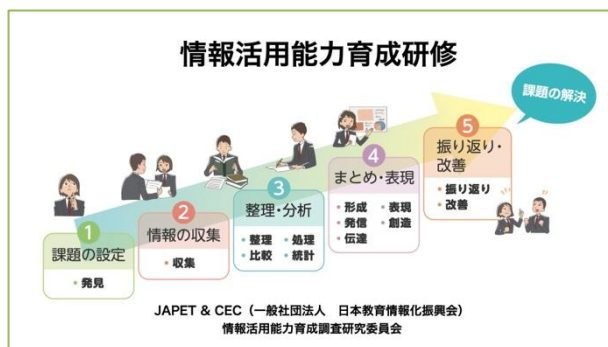
(3) 3、グループ編成や会場の準備

以下のチェックリストを読んで、研修がスムーズに進行できますようご準備ください。

- グループ編成
 - ・ 3～4人で1チームを編成
 - ・ グループで対話できるように向き合って配置
- 情報端末の準備
 - ・ 参加者は1人1台の情報端末を持参
- 投影装置の準備
 - ・ 前面に大型モニターやスクリーンなどの投影装置の設置
- 音声環境の整備
 - ・ PCの音声がクリアに聞こえるように準備
- 授業支援ツールの活用（プロセス4、5、6）
 - ・ 意見の共有を円滑にするための授業支援ツールやアプリの活用



(4) スライドの内容と研修の流れ



【研修担当者への補足内容】

(0) 表紙

この研修では、研修参加者が、情報活用能力ベーシックの5つの学習過程をビデオを見て理解し、その学習を実際に体験できるように考えられています。

1、本研修の目的を確認する（課題の設定）

この研修では、情報活用能力を育成するためのプロセスを理解するとともに、自分自身の授業改善に生かすことを目的とします。つまり、「自分自身の授業をどのように改善するか」ということが課題ということになります。

また、本研修の流れそのものが、情報活用能力を育成する学習過程になっていますので、体験的に理解することができるようになっています。



課題の設定

(1) 本研修の目的を確認する（5分）

ここでは、研修担当者がスライドの文章を読み上げて、目的を確認します。

2、情報活用能力ベーシックを知る（情報の収集）

研修用ビデオ1を視聴してください。

15分

内容は大きく三つに分かれています。

①情報活用能力とは何か・ベーシックの概要

②情報活用能力を活用した小学校の事例

③情報活用能力を活用した中学校の事例

情報活用能力と情報活用能力ベーシックの概要を知ることができます。

考えるための基となる知識の習得の段階と言えましょう。



情報の収集

（2）情報活用能力ベーシックを知る（15分）

研修担当者は、スライドの文章を読み上げた後、ビデオ1を参加者に見せてください。

3、授業の動画を視聴する（情報の収集）

研修用ビデオ2を視聴してください。

5分

実際の授業の様子が短くまとめられています。

視聴後に、この授業の良かった点や学びになった点を話し合ってください。情報収集の視点でビデオをごらんください。

これは、考える対象となる情報を収集する段階となります。



情報の収集

（3）授業の動画を視聴する（5分）

研修担当者は、スライドの文章を読み上げた後、ビデオ2を参加者に見せてください。

4、授業からの学びを明らかにする（整理・分析）

ビデオ2の授業の良かった点や学びになった点を、対話によって明らかにしてください。情報端末を使って共有するのも効果的です。

10分

情報活用能力育成の視点として次のようなことを考えてみましょう。

- ・この授業での情報とは何なのか
- ・5つの学習過程がどう具体化されていたか
- ・教師の働きかけはどうだったか



整理・分析

（4）授業からの学びを明らかにする（10分）

ビデオ2の良かった点や学びになった点を対話によって明らかにしていきます。情報端末を使って共有するのも効果的です。考える視点として次のことを提示するとよいでしょう。

- ・この授業での情報とは何なのか

5、自分の授業への活用を考える（まとめ・表現）

グループで、授業の良かった点や学びになった点を参考にしながら、自分の授業への活用を対話によって具体的に考えて明らかにしてください。

10分

「社会科で情報の収集ができるようにする」

「理科で学んだことをまとめられるようにする」

「国語科で振り返りができるようにする」

といった日常の授業改善のアイデアを言語化してみんなで共有しましょう。



まとめ・表現

（5）自分の授業への活用を考える（10分）

4で明らかになったことを基にして、自分の授業への活用を具体的に考えていきます。例えば、

「社会科で情報の収集ができるようにする」

「理科で学んだことをまとめられるようにする」

4 「国語科で振り返りができるようにする」

6、研修全体を振り返る（振り返り・改善） 10分

この研修で自分が学んだことは何か（内容知）、
自分たちの学び方はどうだったのか（方法知）
といったことを対話によって明らかにしてください。

また、同じグループのメンバーの
発言や態度から学んだことも言語化
してみてください。他者からの学び
も重要なポイントです。



（6）研修全体を振り返る（10分）

この研修で自分が学んだことは何か（内容知）、自分たちの学び方はどうだったのか（方法知）といったことを対話によって明らかにしてください。また、同じグループのメンバーの発言や態度から学んだことも言語化してみてください。他者からの学びも重要なポイントです。

振り返りを数名に発表してもらったり、情報端末を使って全体に共有して、研修を閉じます。

（5）研修用ビデオ教材の内容

① 研修用ビデオ1（約13分）

情報活用能力ベーシックの概要、小学校の事例、中学校の事例

② 研修用ビデオ2について（約5～10分）

小学校実践授業ビデオ

中学校実践授業ビデオ

4. 「情報活用能力ベーシックを活用！情報活用能力を育む授業づくりを実現する校内研修パッケージ」パンフレット

2020年度に、学習プロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標である「情報活用能力ベーシック（小学校）」を開発し、2021年度は「情報活用能力ベーシック（小学校）」を活用した「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（小学校編）」を制作した。2022年度は「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（中学校編）」を制作した。

2023年度は、情報活用能力ベーシックを活用した実践事例を、単元という形でまとめ、学校現場の先生方に、より授業の実践内容が伝わるように製作した。

以下の4つの柱となる。

- (1) 情報活用能力ベーシックのこれまで
- (2) 広がる情報活用能力ベーシックの活用
- (3) 実践事例の歩き方～事例の見方・使い方
- (4) 小学校実践事例6事例、中学校実践事例3事例

そして2024年度は、「情報活用能力ベーシックを活用した校内研修パッケージ」を開発し、その紹介パンフレットを制作した。

図表5 紹介パンフレット表紙 JKA補助事業マークを掲載



競輪の補助事業
本事業は競輪の補助を受けています
<https://jka-cycle.jp>

図表6 紹介パンフレット2ページ 校内研修発案の構成

学習指導要領において、**情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力と位置づけ**られました。そして高速大容量のネットワークに接続した1人1台端末、クラウドベースのアプリや学習者用デジタル教科書等のデジタル学習基盤を活用した学習者中心の授業づくりが広く求められています。



しかしながら、学習者中心の学びに不可欠といえる情報活用能力の育成のための取組は、まだまだ十分とはいえません。具体的な授業づくりについてイメージすることが難しいという学校現場からの声をたびたび耳にします。このような状況において、私たちの研究グループでは**情報活用能力ベーシック**を開発し、全国各地で情報活用能力ベーシックの知見に基づいたワークショップ型研修を実施してきました。

そしてこのたび情報活用能力を育む授業づくりの実現をより一層支援するために、**校内研修を想定した教員研修パッケージを開発**しました。ぜひ多くの学校現場で活用されることを願っており、これからの授業づくりの参考にお役立てください。

校内研修パッケージの構成

研修の手引き <情報活用能力育成研修の手引き>

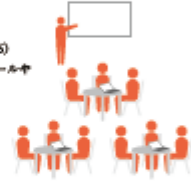
研修を実施する際の研修の目的、研修の展開、グループ編成や準備物、スライド資料における留意点などを示した手引き書

■ 研修の流れ（展開）

順番	活動内容	プロセス	時間
1	本研修の目的を確認する（研修担当者からの説明）	課題の設定	5分
2	情報活用能力ベーシックを知る（研修用ビデオ1の視聴）	情報の収集	15分
3	授業の動画を視聴する（研修用ビデオ2の視聴）	情報の収集	5分
4	授業からの学びを明らかにする（対話）	整理・分析	10分
5	自分の授業への活用を考える（対話）	まとめ・表現	10分
6	研修全体を振り返る（対話）	振り返り・改善	10分

■ グループ編成や準備物など

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> グループ編成 <ul style="list-style-type: none"> - 3~4人で1チームを編成 - グループで対話できるように向き合って配置 <input type="checkbox"/> 情報端末の準備 <ul style="list-style-type: none"> - 参加者は1人1台の情報端末を所持 <input type="checkbox"/> 投影装置の準備 <ul style="list-style-type: none"> - 画面に大型モニタやスクリーンなどの投影装置の設置 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 音声環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> - PCの音声が出音できるように準備 <input type="checkbox"/> 授業支援ツールの活用（プロセス4、5、6） <ul style="list-style-type: none"> - 意見の共有を円滑にするための授業支援ツールやアプリの活用 |
|---|--|



■ 解説付きのスライド資料

4、授業からの学びを明らかにする（整理・分析）
ビデオ2の授業の良かった点や学びになった点を、対話によって明らかにしてください。情報端末を使って共有するのも効果的です。情報活用能力形成の基盤として次のようなことを考えてみましょう。
・この授業での情報とは何なのか
・5つのプロセスがどう具体化されていたか
・教師の働きかけはどうだったか



（4）授業からの学びを明らかにする（10分）
ビデオ2の良かった点や学びになった点を対話によって明らかにしていきます。情報端末を使って共有するのも効果的です。考える視点として次のことを提示するとよいでしょう。
・この授業での情報とは何なのか
・5つのプロセスがどう具体化されていたか

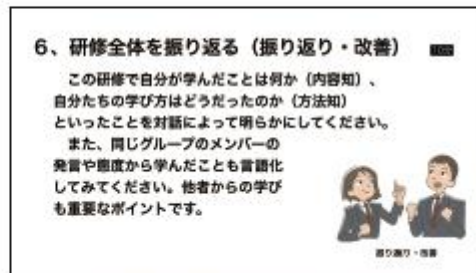
図表7 紹介パンフレット3ページ 校内研修発案の構成

スライド資料

- 大型提示装置に提示するための資料
- 可変して使用できるように PDF ファイルの他、PowerPoint、Keynote 対応のファイルも用意



情報活用能力ベーシックの
5つの学習過程について説明するスライド



研修の最後に使用する「振り返り」のスライド

研修で使用する動画資料 ※今後、動画資料は追加される予定

- 情報活用能力や情報活用能力ベーシックに関する解説動画
- 情報活用能力の育成を意識した授業の動画資料
 - ・研修ではショートバージョンを使用
 - ・研修時間に余裕がある場合にはロングバージョンを使用することも可能

※JAPET&CEC サイトにて、ダウンロードできます。



委員の郡可専任教諭による授業の様子

ダウンロード版校内研修パッケージのご案内

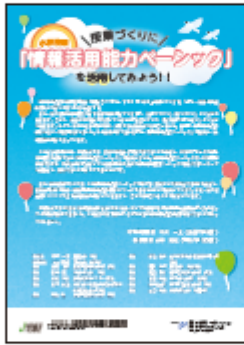
校内研修等の利用に限り、すべて無料でダウンロード可能です。
<https://www.japet.or.jp/inf-ut-ability-dev/training-package/>



図表8 紹介パンフレット4ページ 既刊 授業づくりに役立つ資料

既刊 授業づくりに役立つ資料

情報活用能力ベーシック (小学校)



小学校の授業を対象にして、基本となる探究の学習過程に情報活用能力を位置づけた「情報活用能力ベーシック」を紹介。学習指導要領に示された各教科の特徴をふまえて国語から特別活動までの13の教科・領域における展開例や情報活用能力ベーシックの活用例を掲載しています。

情報活用能力を育む授業づくりガイドブック (小学校編)



「情報活用能力ベーシック (小学校)」の内容を発展させ、小学校4教科(国語・社会・算数・理科)を学年別に整理したものを含めています。また学校現場の声を受け、各教科における授業事例を掲載して小学校の授業で活用しやすいものとしてまとめています。

情報活用能力を育む授業づくりガイドブック (中学校編)



学校現場からの声を受け、待望の中学校編を開発。中学校5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の情報活用能力ベーシックを示しています。小学校版と同様に授業事例を掲載して中学校の授業で活用しやすいものとしてまとめています。

情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集



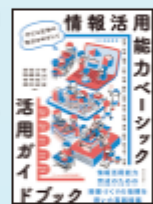
委員だけではなく学校現場や教育委員会の多くの方の協力を得て「情報活用能力ベーシック」を用いた実践事例(小学校6事例、中学校3事例)を収録。本時の授業に加えて単元デザインを示した事例集であり、授業づくりの詳細を確認できます。

情報活用能力育成調査研究委員会

- | | | |
|-----|-------|--------------------------------------|
| 委員長 | 小林 祐記 | 放送大学 准教授 |
| 委員 | 秋元 大輔 | 船橋市立宮本小学校 校長 |
| 委員 | 有金 大輔 | 北海道教育大学附属函館中学校 教諭 |
| 委員 | 稲垣 忠 | 東北学院大学 教授 |
| 委員 | 岩崎 有朋 | 札幌国際大学 教授 |
| 委員 | 小内 慶太 | 宮代町立須賀小学校 教諭 |
| 委員 | 菊地 寛 | 浜松市立大瀬小学校 教諭 |
| 委員 | 北濱 康裕 | 加賀市立片山津中学校 教諭 |
| 委員 | 郡司 直孝 | 学校法人桐蔭学園中等教育学校 専任教諭 |
| 委員 | 佐藤 幸江 | 放送大学 客員教授 |
| 委員 | 佐和 伸明 | 千葉県柏市立大津ヶ丘第一小学校 校長 |
| 委員 | 田中 聖 | 東京都新宿区立市谷小学校 |
| 委員 | 中川 一史 | 放送大学学園 / 放送大学
次世代教育研究開発センター長 / 教授 |
| 委員 | 前田 康裕 | 熊本大学大学院 特任教授 |
| 委員 | 渡辺 拓也 | 船橋市立若松小学校 教諭 |

新刊 情報活用能力ベーシック活用ガイドブック

本書は、4部構成になっている。まず「理論編」では、これからの授業のあり方に始まり、情報活用能力、さらには本書の核である「情報活用能力ベーシック」について解説している。「実践編」では、各教科等について、具体的な実践の流れを示している。「普及編」では、教員、学校、自治体にスポットを当てその取り組みについて示している。最後に「研修編」では、模擬授業を含んだワークショップ研修やワークショップの意義と効果について解説している。



発行

一般社団法人 日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目10番1号

虎ノ門ツインビルディング東棟1階

Tel 03(5575)5365 Fax 03(5575)5366

https://www.japet.or.jp/

発行日 2025年3月25日

5. セミナー開催

(1) 概要及びスケジュール

2024年度は、昨年度までに開発した以下の4つのパンフレットを活用して実践した模擬授業を、ビッグイベントの中で3か所で実施する事ができ、単独セミナー2回、教育委員会とのタイアップ1回を開催できた。

- ① 「情報活用能力ベーシック（小学校）」
- ② 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（小学校編）」
- ③ 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（中学校編）」
- ④ 「情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」。

図表9 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	2024. 7. 25	大阪府大阪市／第9回関西教育 ICT 展・ATCホール 中学校模擬授業	佐藤委員 秋元委員 郡司委員	38名 (定員36名)
第2回	2024. 7. 26	大阪府大阪市／第9回関西教育 ICT 展・ATCホール 小学校模擬授業	小林委員 佐和委員 菊地委員	45名 (定員36名)
第3回	2024. 8. 8	北海道札幌市／教育フェスティバル in 札幌国際大学	小林委員 菊地委員	30名 (定員40名)
第4回	2024. 10. 19	岡山県岡山市／第8回ラインズオカヤマ主催教委行くセミナー in オカヤマ／TKP ガーデンシティ岡山	前田委員 小林委員 北濱委員	36名 (定員36名)
第5回	2024. 10. 26	東京都港区／JAET 東京都港区大会 東京都港区立赤坂中学校	小林委員 佐和委員 菊地委員	24名 (定員30名)
第6回	2024. 12. 21	宮城県栗原市教育委員会とのタイアップセミナー／エポカ21	稲垣委員 前田委員 岩崎委員 佐和委員 菊地委員	42名 (定員60名)

			有金委員 小内委員 田中委員	
第7回	2024. 12. 26	富山県富山市教育委員会とのタイアップセミナー／富山市教育センター	小林委員長 中川委員 佐藤委員 佐和委員 岩崎委員 菊地委員 渡辺委員 郡司委員	70名 (定員 80名)
第8回	2025. 1. 25	沖縄県那覇市／第29回沖縄県マルチメディア教育実践研究大会 那覇市立松島小学校	佐藤委員 秋元委員	20名 (定員 30名)
第9回	22025. 2. 27	教育DX推進フォーラム／ 中学校模擬授業 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟	秋元委員 前田委員 郡司委員	44名
第10回	2025. 2. 28	教育DX推進フォーラムパネルディスカ ッション 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟	中川委員長 小林副委員 佐藤委員 稲垣委員	150名
合計				499名

(2) 概要

セミナーの開催地は以下の要領で行った。

1) テーマ

「情報活用能力を育む授業デザインを考える」

2) 内容

◆ビッグイベント

小学校模擬授業 または 中学校模擬授業

◆単独セミナー／教育委員会タイアップセミナー

基調講演

小学校模擬授業

中学校模擬授業

総括パネルディスカッション

3)対象受講者

教育委員会、教職員等学校関係者

4)基調講演

①「生成 AI×次期学習指導要領×NEXT GIGA の情報活用能力を考える」

東北学院大学教授 稲垣 忠

②「再考：情報活用能力」

放送大学学園／放送大学 次世代教育研究開発センター長／教授 中川 一史 氏

5)模擬授業

①小学校：《情報活用能力ベーシックを活用した授業づくりワークショップ（小学校）》

模擬授業者：東京都新宿区立市谷小学校 教諭 田中 愛委員

②中学校：《情報活用能力ベーシックを活用した授業づくりワークショップ（中学校）》

模擬授業者：埼玉県宮代町立須賀小学校 教諭 小内 慶太委員

③小学校：《情報活用能力ベーシックを活用した授業づくりワークショップ（小学校）》

模擬授業者：千葉県船橋市立若松小学校 教諭 渡辺 拓也委員

④中学校：《情報活用能力ベーシックを活用した授業づくりワークショップ（中学校）》

模擬授業者：学校法人桐蔭学園中等教育学校 専任教諭 郡司 直孝委員

6)開催の様子



図表10 第9回関西教育ICT展内セミナー（ATCホール）の様子（令和6年7月25日）



図表11 関西教育ICT展内セミナー（ATCホール）の様子（令和6年7月26日）

図表1 2 教育フェスティバル in 札幌国際大学内ワークショップ（札幌国際大学）開始前の J K A マーク表示の様子（令和6年8月8日）



**教育フェスティバル
in札幌国際大学
授業のレベルアップ
情報活用能力ベーシック活用**

JAPET & CEC

KEIRIN.JP
KEIRIN Official Website


JKA Social Action
競輪とオートレースの補助事業

本事業は
競輪の補助金を受けて
実施しております

一般社団法人 **日本教育情報化振興会**


図表13 第8回教育セミナーin岡山とのタイアップセミナー(TKP ガーデンシティ岡山)の様子
(令和6年10月19日)







第8回教育セミナーinおこやま

情報活用能力育成 ～模擬授業実践から～

 本事業は
競輪の補助金を受けて
実施しております。

 競輪とオートレースの補助事業

一般社団法人 日本教育情報化振興会 



図表 1 4 JAET 東京都港区大会内でのワークショップ（東京都港区立赤坂中学校）
（令和 6 年 1 0 月 2 6 日）



図表 1 5 宮城県栗原市教育委員会とのタイアップセミナー（エポカ 2 1）の様子
（令和 6 年 1 2 月 2 1 日）



APET & CEC

**情報活用能力育成セミナー
in宮城県栗原**

KEIRIN.JP
競輪オフィシャルウェブサイト

JKA Social Action
競輪とオートレースの補助事業

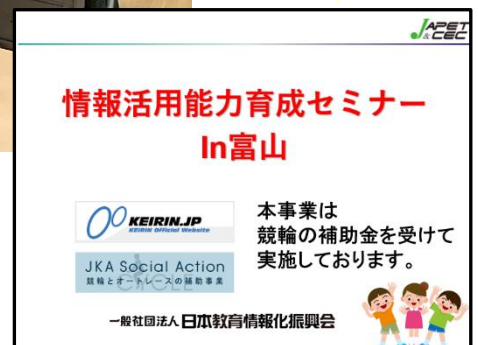
本事業は
競輪の補助金を受けて
実施しております。

一般社団法人日本教育情報化振興会

図表 1 6 宮城県栗原市教育委員会とのタイアップセミナーでの小学校模擬授業)の様子



図表 1 7 富山県富山市教育委員会とのタイアップセミナー（富山市教育センター）の様子
(令和6年12月26日)




図表 1 8 第 29 回沖縄県マルチメディア教育実践研究大会とのタイアップセミナー
 (那覇市立松島小学校) の様子 (令 7 年 1 月 2 5 日)




**JAPET
& CEC**

**第29回沖縄県マルチメディア
 教育実践研究大会
 情報活用能力育成ワークショップ**




KEIRIN.JP
競輪オフィシャルウェブサイト



JKA Social Action
競輪とオートレースの補助事業

本事業は
競輪の補助金を受けて
実施しております。

一般社団法人 **日本教育情報化振興会**




図表 1 9 教育DX推進フォーラム内セミナー (国立オリンピック記念青少年総合センター
 カルチャー棟) の様子 (令和 7 年 2 月 2 7 日～2 8 日)

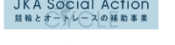


**JAPET
& CEC**

**2024年度教育DX推進フォーラム
 情報活用能力育成セミナー
 ～模擬授業実践から～**




KEIRIN.JP
競輪オフィシャルウェブサイト



JKA Social Action
競輪とオートレースの補助事業

本事業は
競輪の補助金を受けて
実施しております。

一般社団法人 **日本教育情報化振興会**



図表 2 0 教育 DX 推進フォーラム内セミナー（国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟）の様子（令和 7 年 2 月 2 7 日～ 2 8 日）



図表 2 1 教育 DX 推進フォーラム内セミナー（国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟）の様子（令和 7 年 2 月 2 7 日～ 2 8 日）



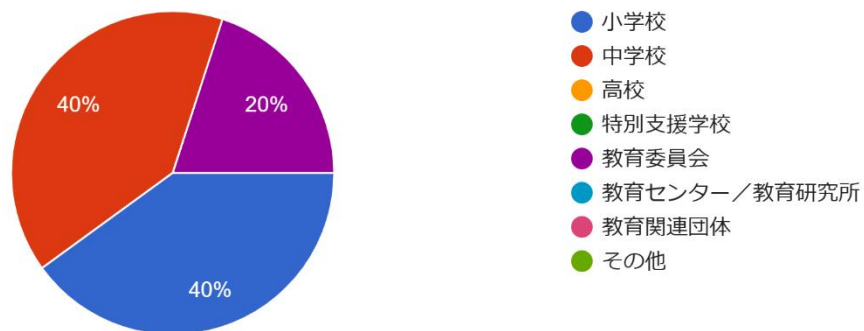
(3) アンケート結果

情報活用能力育成セミナーin 宮城栗原市 回答：10件

図表 2 2 質問 2 の回答結果

質問 2 ご職業分類を教えてください

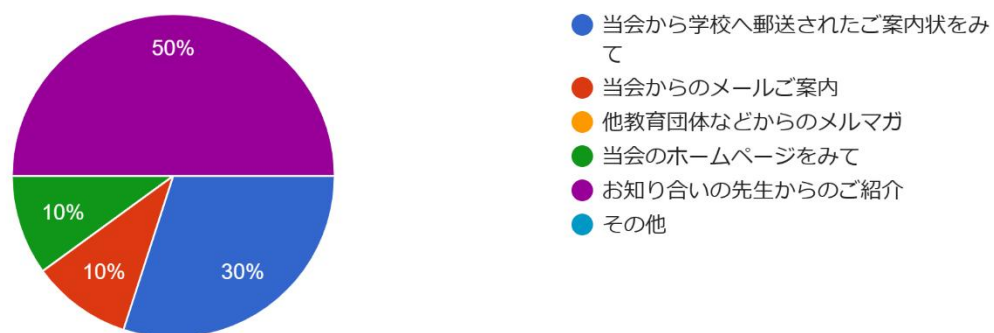
10件の回答



図表 2 3 質問 3 の回答結果

質問 3 本セミナーは、何でお知りになりましたか。

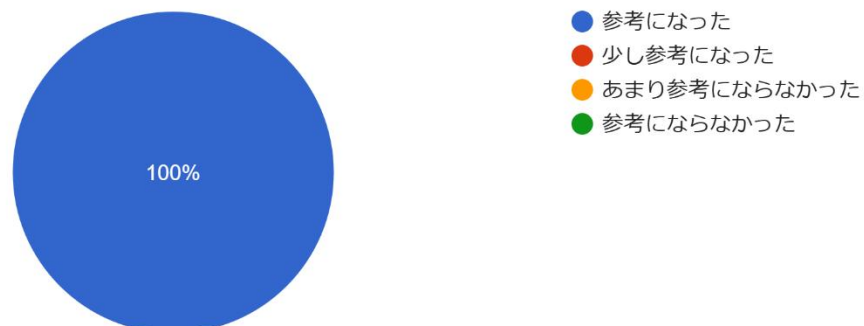
10件の回答



図表 2 4 質問 4 の回答結果

質問 4 全体としてセミナーの内容は、いかがでしたか。

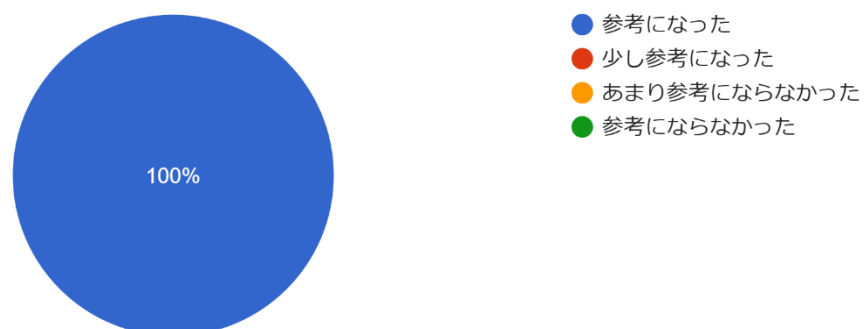
10 件の回答



図表 2 5 質問 5 の回答結果

質問 5 【基調講演】「生成AI×次期学習指導要領×NEXT GIGAの情報活用能力を考える」の内容は、いかがでしたか。

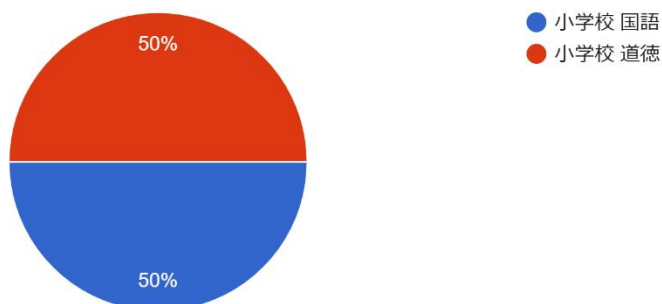
10 件の回答



図表 2 6 質問 6 の回答結果

質問 6 参加された模擬授業はどちらですか

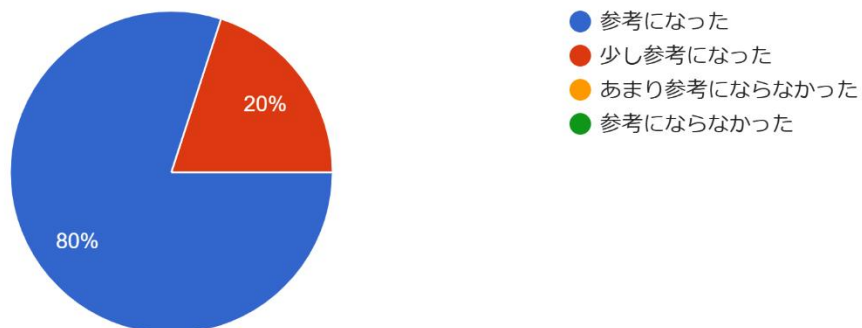
10 件の回答



図表 2 7 質問 7 の回答結果

質問 7 参加された模擬授業の内容は、いかがでしたか。

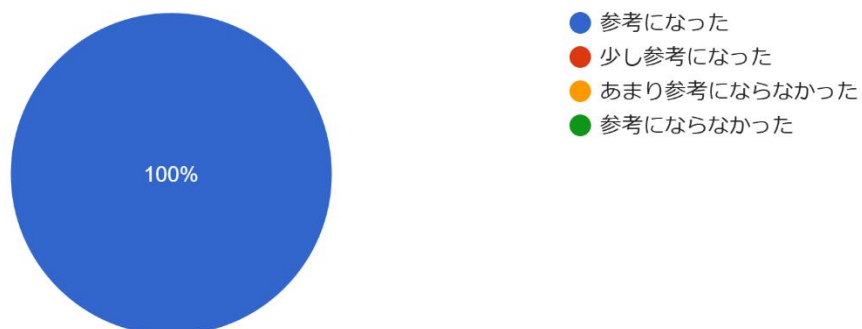
10 件の回答



図表 2 8 質問 8 の回答結果

質問 8 総括パネルディスカッションの内容は、いかがでしたか。

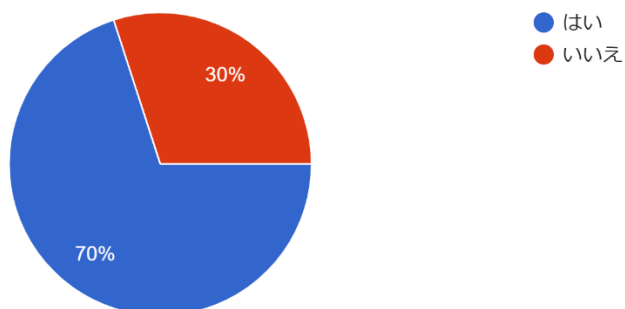
10 件の回答



図表 2 9 質問 9 の回答結果

質問 9 当会では、「先生と教育委員会向けのメル...ご案内しています。受信をご希望されますか。

10 件の回答



質問10 セミナー全般について、ご感想等がございましたら、お願いします。

1 件の回答

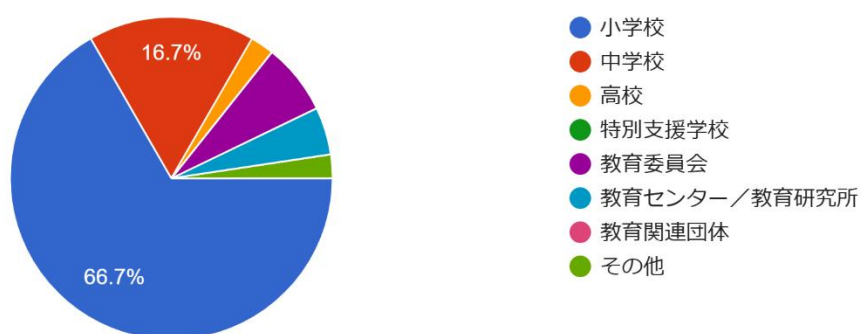
①新しい学習指導法や教育ツールを教えていただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。

情報活用能力育成セミナーin 富山 回答：42件

図表30 質問2の回答結果

質問2 ご職業分類を教えてください

42件の回答



図表31 質問3の回答結果

質問3 本セミナーは、何でお知りになりましたか。

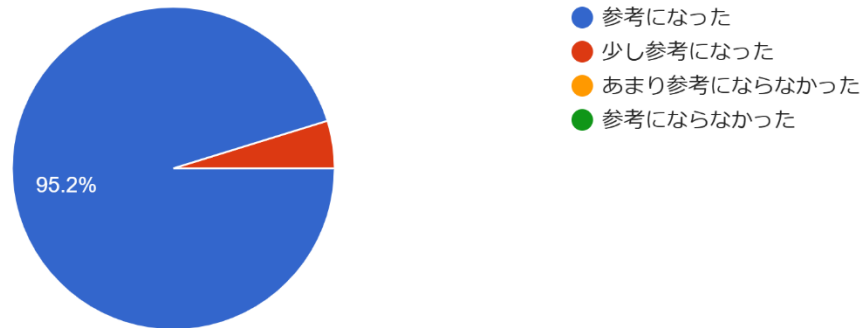
42件の回答



図表 3 2 質問 4 の回答結果

質問 4 全体としてセミナーの内容は、いかがでしたか。

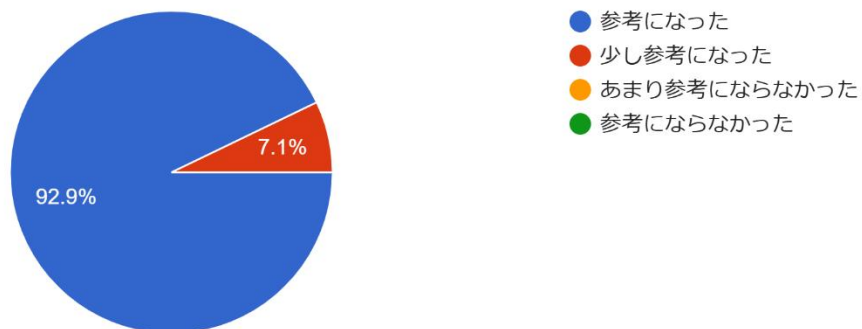
42 件の回答



図表 3 3 質問 5 の回答結果

質問 5 【基調講演】「再考：情報活用能力」の内容は、いかがでしたか。

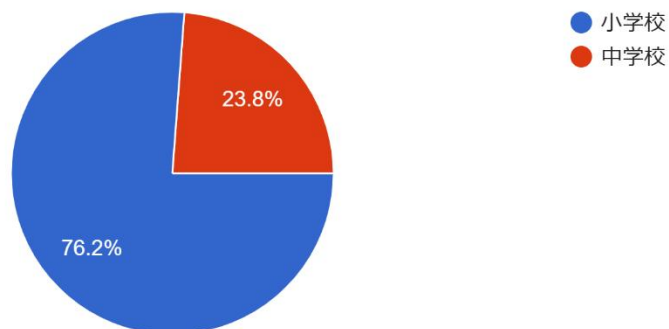
42 件の回答



図表 3 4 質問 6 の回答結果

質問 6 参加された模擬授業はどちらですか

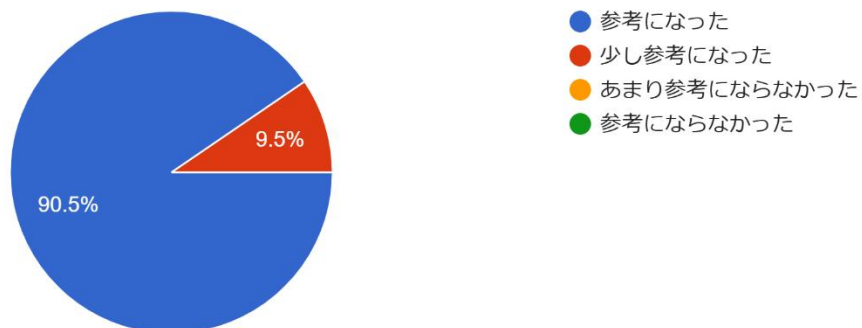
42 件の回答



図表 3 5 質問 7 の回答結果

質問 7 参加された模擬授業の内容は、いかがでしたか。

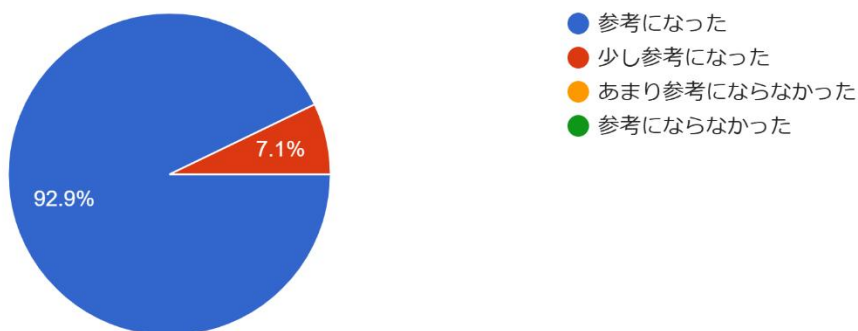
42 件の回答



図表 3 6 質問 8 の回答結果

質問 8 総括パネルディスカッションの内容は、いかがでしたか。

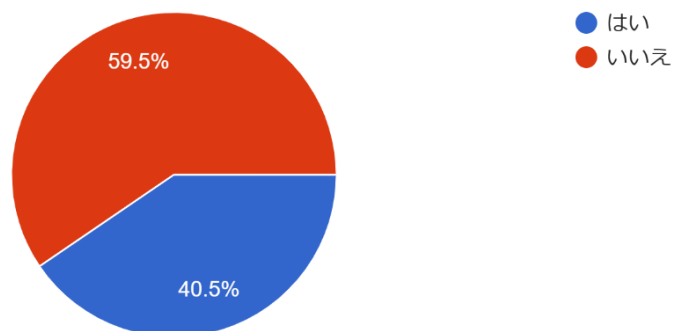
42 件の回答



図表 3 7 質問 9 の回答結果

質問 9 当会では、「先生と教育委員会向けのメル...ご案内しています。受信をご希望されますか。

42 件の回答



質問10 セミナー全般について、ご感想等がございましたら、お願いします。

- ① 貴重な機会をいただきありがとうございました。また、色々ご心配もおかけしましたことをお詫び申し上げます。今後も学校現場で教育活動全体を通して情報活用能力の育成を図っていけるように支援してまいります。
- ② 本日は、セミナーに参加させていただき、ありがとうございました。また、どうぞよろしくお願ひします。
- ③ ありがとうございました。若い方たちも連れてこればよかったです。
- ④ 本日は、ありがとうございました。富山でこのようなセミナーを開いていただき、大変学びの多い時間となりました。富山市の教育といかに融合し、活かしていくかを考えたいと思います。（メルマガは、別アドレスで既に登録していると思います）
- ⑤ ありがとうございました。
- ⑥ 貴重な学びの機会をいただき、ありがとうございました。
- ⑦ 駐車場が分かると助かります。

6. まとめ

本委員会では、学校現場の先生方が子どもたちの情報活用能力を育成する学習を行うために、参考となる指導指標を開発は、その指導指標を学校現場で活用してもらい、普及することを本事業の目的とした。

2024年度は、2020年度に開発した授業の構想及び実践に資することを意図し、学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた「情報活用能力ベーシック」を活用した校内研修パッケージを開発し、それを紹介するパンフレットも合わせて制作した。

そして、昨年度まではセミナーの模擬授業動画を制作していたが、今年度は実践授業動画を小学校と中学校と制作することができた。

模擬授業については、この情報活用能力ベーシックを活用した学習指導案を作成し、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできるものとして、2024年度も開発した。今年度は、3つのビッグイベントの中で模擬授業を行うことができた。

また、当会や関連団体が開催するセミナーとタイアップして、模擬授業を行うことができた。

教育委員会とのタイアップセミナーは、単独セミナーとして東日本1地域と西日本各1地域ずつで開催することができた。市の教育委員会と開催することができ、多数の学校関係者に参加いただいた。

これまでに4つのガイドブックや事例集等を製作し、それをセミナー内で活用し、広くPR出来たことが大きな成果となった。

- (1) 「情報活用能力ベーシック」パンフレット
- (2) 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」
- (3) 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック 中学校編」
- (4) 「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」

2025年度も引き続き、本事業で開発した「情報活用能力ベーシック」を全国の学校関係者に啓蒙していくために、地域密着型の施策としては、様々な地域やイベントで4つのガイドブックや事例集を活用した模擬授業を実施していき、さらに学校現場をサポートする校内研修パッケージを活用されることを期待している。

また、全国の教育関係者に広まる施策としては、実践授業の動画コンテンツをまた制作し、インターネットから動画が視聴できるようにしていきたい。

教育委員会にとっても、この4つのツールと校内研修パッケージは、学校指導に有効活用できるものであり、教育関係者に役立つものと考えている。今後はweb等で広く啓蒙していく予定である。

本委員会では、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の日本教育情報化振興会が一丸となって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願ってやまない。

以 上

教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書

発行・著作 一般社団法人日本教育情報化振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング1階

TEL 03-5575-5365

FAX 03-5575-5366

<https://www.japet.or.jp/>

禁無断転載

JAPET
& CEC